

## 生活科学科 (国語)

【一】次の文章を読んで、設問に答えなさい。

金谷武洋『日本語は亡びない』より (一部省略)

問 1 **A** に入れるべき語として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 話し手
- 2 対話の場
- 3 〈我〉
- 4 〈我〉と〈汝〉の両者
- 5 聞き手

問 2 ( 6 ( 2 ) ( 6 ) に入れるべき語として最もふさわしいものを選びなさい。  
ただし、一度しか使えません。

- 1 あたかも
- 2 いささか
- 3 例えば
- 4 まさに
- 5 またしても

問 7 **B** に入れるべき語として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 自己を世界より重いと感ずるところに
- 2 自己を世界と同等に見るところに
- 3 自己を世界から切り取るところに
- 4 自己と他者を相対化させるところに
- 5 自己と他者を融合させるところに

問 8 傍線部 **C** 「タンテキ」の「タン」に該当する漢字を含むものを選びなさい。

- 1 タンシン赴任
- 2 最センタンの科学
- 3 タンキは損気
- 4 レイタンな態度
- 5 ダイタンな行動

問 9 傍線部 **D** 「ツトめた」に該当する漢字を選びなさい。

- 1 努めた
- 2 勤めた
- 3 力めた
- 4 勉めた
- 5 務めた

問 10 傍線部 **E** 「ハウガン」の「ガン」に該当する漢字を含むものを選びなさい。

- 1 イチガンとなって戦う
- 2 ネンガンの優勝
- 3 優れたカンサツガン
- 4 金のガンユウリヨウ
- 5 ガンクビを揃える

問 11 **F** **G** に入れるべき組みあわせを選びなさい。

- 1 いる ある
- 2 入る 行く
- 3 いる 入る
- 4 ある 行く
- 5 いる 行く

問12 波線部H「何という白熱、緊張した再会の場面を日本人は言語化しているのか」の説明として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 日本語の挨拶が対話の形式である点に着目すると、「我」と「汝」の関係性が極めて濃密であり、まるで両者が同じ場に集う喜びを発話で確認し合うかのようなのである。
- 2 日本語の挨拶は相対する二者の関係性を明確に示すものである。常に緊張の中で相手の行動を見守っており、いわば再び巡り会う奇蹟を待ち望んでいるかのようなのである。かつては一度家から出た者が必ず帰還できるとは限らなかった。そうした緊迫した日々が通常であったため、家族のもとに復帰できた幸運をお互いに言祝ぐのである。
- 3 日常の何気ない帰宅の際にも、日本語には緊張に満ちた挨拶表現が込められている。そこで家族が戻ってきたときにもまるで客人のように迎える素振りをするのである。
- 4 日本語話者は「我」と「汝」を明確に区別せず、共同体の中の「我」として意識するため、戻ってきた者も迎える者も何ごともなく日常に復帰するのである。

問13

I

に入れるべき表現として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 日本語ほど緊張感に満ちた言語はなく、高度な敬語表現はその表れの一つであると考えられるのだ。
- 2 互いを思いやる日本人は、相手への気配りがすべてだと考えており、迎え入れる姿勢を明確にすることを何にもまして優先していると考えられる。
- 3 「我」と「汝」が一体となって溶け込もうとする、それが日本文化の基本ではないかとさえ私には思えるのだ。
- 4 共同体意識の強調は、意見を主張しない日本人のマイナス面としてとらえられることもあるが、日本語はそもそも思いやりの言語だと言えるだろう。
- 5 日本語の敬語は英仏語と異なり、そもそも共同体意識の確認として成立していると思われるのだ。

問14

J

に入れるべき表現として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 共同体意識の強い日本人なら本来は「私たちみんな」と書くべきところだ
- 2 「誰の過ちか」という責任の所在を明確にしないことが後々問題になる
- 3 「誰の過ちか」を明示しないことがつまりは戦後日本の歴史観なのである
- 4 「誰の過ちか」が明らかにならない方がかえって日本語らしくていい
- 5 「誰の過ちか」を曖昧にして責任回避を繕っている点が日本的といえる

問15 18 次の各文が本文の内容に合致していれば1、していなければ2で答えなさい。

- 15 「ドアを閉めます」では「我」と「汝」は切断されている。「ドアが閉まります」の場合、ドアが主語となり、「我」と「汝」は対話の場に溶け込んでいる。
- 16 「我」と「汝」を共存意識でとらえるのは日本人の自我の特徴であり、「我」を孤立させたり、「我」を強調したりせず、「汝」と一体感を保つことで安定しているのである。
- 17 日本語の特徴はとりわけ挨拶語に顕著である。我々は挨拶を交わすことで血の繋がりを確認し、共同体に所属していることを言祝いでいるのである。
- 18 広島の慰霊碑の主語が欠落していることは、責任の所在を曖昧にする日本的な発想と連動しており、まさに日本語の隙を突く表現となっている。

【二】 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

駒野剛「ザ・コラム」『朝日新聞』二〇一六年七月七日（一部改変）

問19 傍線部A「イツカク」の「カク」に該当する漢字を含むものを選びなさい。

- 1 鮭のホカク量
- 2 企業乗っ取りのカクサク
- 3 経済カクサ
- 4 サンカク定規
- 5 ドローンのエンカク操作

問20 ㉔ ㉔ ㉔ に入れるべき語として最もふさわしいものを選びなさい。  
ただし、一度しか使えません。

- 1 総力戦
- 2 明治
- 3 学徒出陣
- 4 富国強兵
- 5 疾風怒濤

問25 傍線部B「喧噪（けんそう）」のこの文章における意味として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 戦場特有の兵士たちの怒号や叫び声の騒々しさ
- 2 ギリギリの生を考えまいと振る舞う兵士たちの切ない笑い声
- 3 知性とは無縁の刹那的な話題に終始するおしゃべりのやかましさ
- 4 自分の思想とは異なる世の中の動きにのみ込まれるやりきれなさ
- 5 学問とは関係のない会話に同調しなければならぬ苦しさ

問26 波線部C「天皇のためなら死ぬのが当然という殉死の思想に潜む危険性を心底嫌ったのでしよう」の主語を選びなさい。

- 1 明治学院百年史は
- 2 乃木大将は
- 3 長谷川信は
- 4 井深梶之助は
- 5 本場の武士道は

問27 波線部D「その理不尽さを痛感する」理由の説明として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 時代に翻弄され、女子どもまで戦に巻き込んで多くの命を犠牲にした会津藩士としての経験があるから
- 2 天皇に殉じた乃木希典夫妻の行為を、まるで真の武士道であるかのように喧伝する国家のあり方に憤りを感じるから
- 3 同郷である会津の若き後輩が、かつての会津藩士と同じく国家のために命を奪われたことに怒りを感じるから
- 4 天皇という崇拜の対象を置くことで、国民に死をも強制する意識誘導を行った国家のあり方に疑問を感じるから
- 5 特攻兵を天皇の「醜の御楯」と呼ぶ発想に見られるように、国民の命を粗末に扱う国家のあり方が不健全だから

問 28 傍線部 E 「レジーム」の意味として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 中央政権
- 2 政治体制
- 3 国民動員
- 4 軍国主義
- 5 明治政府

問 29 文中には「戦争を憎悪し、軍隊を嫌悪した。」という一文が省略されています。

【1】～【5】の中で最もふさわしい箇所を選びなさい。

【三】 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

高田里恵子『女子・結婚・男選び』より（一部改変）

問 30 ～ 問 32 （ 30 ） ～ （ 32 ） に入れるべき語を選びなさい。

- 1 脳天気な悪妻
- 2 「女房的リアリズム」の視点
- 3 礼賛の言葉
- 4 常識
- 5 他者としての妻

問 33 A に入れるべき表現として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 思わず膝を打った
- 2 少しほっとした
- 3 愕然とした
- 4 少しがっかりした
- 5 我が意を得たりと思った

問 34 傍線部 B 「昭和初期のマルクス主義思想」を代表する文学作品を選びなさい。

- 1 檸檬
- 2 機械
- 3 蟹工船
- 4 羅生門
- 5 都会の憂鬱

問 35 傍線部 C 「これ」を示す表現として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 漱石作品への非難
- 2 母の批判能力
- 3 鏡子悪妻説
- 4 マルクス主義思想
- 5 漱石の弟子たち

問 36 傍線部 D 「反駁（はんぱく）」の意味として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 古い考えに対し、理路整然と持論を展開すること
- 2 子どもらしい反抗心を明確に見せること
- 3 他人に成り代わって、主張すること
- 4 目上の者に対し、猛然と反抗すること
- 5 他から受けた攻撃に対し、論じ返すこと

問 37 傍線部E「則天去私」は晩年の漱石が理想とした心境と言われています。その意味として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 晴耕雨読の暮らしを選択すること
- 2 引き際を知り潔く第一線を退くこと
- 3 我執を捨てて自然に身を委ねること
- 4 自らの進退を周囲の判断に任せること
- 5 自分自身の評価を他人に委ねること

問 38 本文から読み取れる夏目伸六の心境として最もふさわしいものを選びなさい。

- 1 世間というものは偉大な作家・漱石の方が受け容れやすく、自分の父、母の夫といった人間・漱石はあまりにも赤裸々過ぎたようである。偉大な作家像の一人歩きに戸惑うとともに、私的領域が排除されたことへの一抹の未練と不満がある。
- 2 漱石ほどの作家の場合、弟子や取り巻きによって文芸的世界が形成されてしまい、作家的評価についても男性が中心になりがちである。そうした虚像の前には、夫婦の実情など何ほどの価値もないのであろうかとの憤怒に燃えている。
- 3 作家は作品がすべてとは言え、家族の視点からは自ずと人間・漱石が浮かび上がるはずである。しかし、小宮豊隆をはじめとする弟子たちは崇高な漱石像を重んじるあまり、母を悪妻に仕立て上げたことを許し難いと感じている。
- 4 母を悪妻に仕立て上げること「ソクラテスの妻」に倣ったと思われ、弟子たちのなかなか狡猾な手法であった。そこからこぼれ落ち、イメージを形成されてしまった母がそれでもなお父を慕っていたことに切なさや憐れみを感じている。
- 5 暴力的であった父については触れられず、家事が不得意という理由によって悪妻にされた母について同情している。一方で、その母が父を尊敬していた点については多少の失望と苛立ちを感じている。